

# 一本松古墳・一本松2号墳

北葛城郡河合町佐味田・広陵町寺戸

奈良県立橿原考古学研究所



1・2区全景（東から）



2号墳周溝内円筒棺墓（南から）

今回の調査は馬見丘陵公園整備に伴うもので、地下遺構の状況を確認するための試掘調査である。調査位置は一本松古墳（前方後円墳・全長約130m）の後円部南東側に隣接した場所にあたる。2006年5月10日に調査を開始し、現在継続中。

〈一本松古墳〉 外堤と周壕の一部を検出した。外堤は地山を削り出して造られ、上面幅は約7.5m。周壕側斜面は約40度の急勾配、外側斜面は10度未満と緩やかで、葺石や埴輪樹立は無い。周壕の深さは外堤上面から1m下まで確認した。周壕は奈良時代に埋められている。外堤上面で埴輪棺墓1基と土坑墓1基を検出した。埴輪棺墓は棺に円筒埴輪を2个体使用し、小口部分を埴輪の破片で塞いだもので、埴輪の年代は古墳時代前期末～中期初頭（4世紀中葉）。土坑墓、埴輪棺墓ともに副葬品は無い。

〈一本松2号墳〉 一本松古墳後円部南東側の外堤に接する方形の古墳で、新規発見である。一本松古墳外堤と同時に築造され、墳丘規模は一辺12～14m、主軸は東へ約30度傾く。盛土された墳丘は約1.5mの高さが残る。墳丘斜面の傾斜は約20度で、葺石は無い。周溝は幅4.5m、溝底レベルは標高約52.5mでほぼ一定。周溝は奈良時代に埋められており、円筒棺、草摺形埴輪、家形埴輪、

船形埴輪、円筒埴輪などの破片も多量に出土した。墳丘に円筒棺を用いた埋葬施設の存在と、円筒埴輪や家形埴輪などが立っていた可能性が推定できる。埴輪の年代は前期末～中期初頭。周溝底で円筒棺墓1基、周溝外側斜面で埴輪棺墓1基を検出した。円筒棺墓は墓壇内に粘土を敷いた上に長さ160cm、直径50cmの円筒棺を横置き、頭側を土製蓋で、足側を粘土で塞いだもの。埴輪棺墓は棺に高さ50cm、直径25cmの3条突帯円筒埴輪を2个体繋いで使用したもので、墓壇の上から周溝に向けて突出する約2m四方の低い盛土を確認した。埴輪の年代は中期前葉（4世紀後葉）。

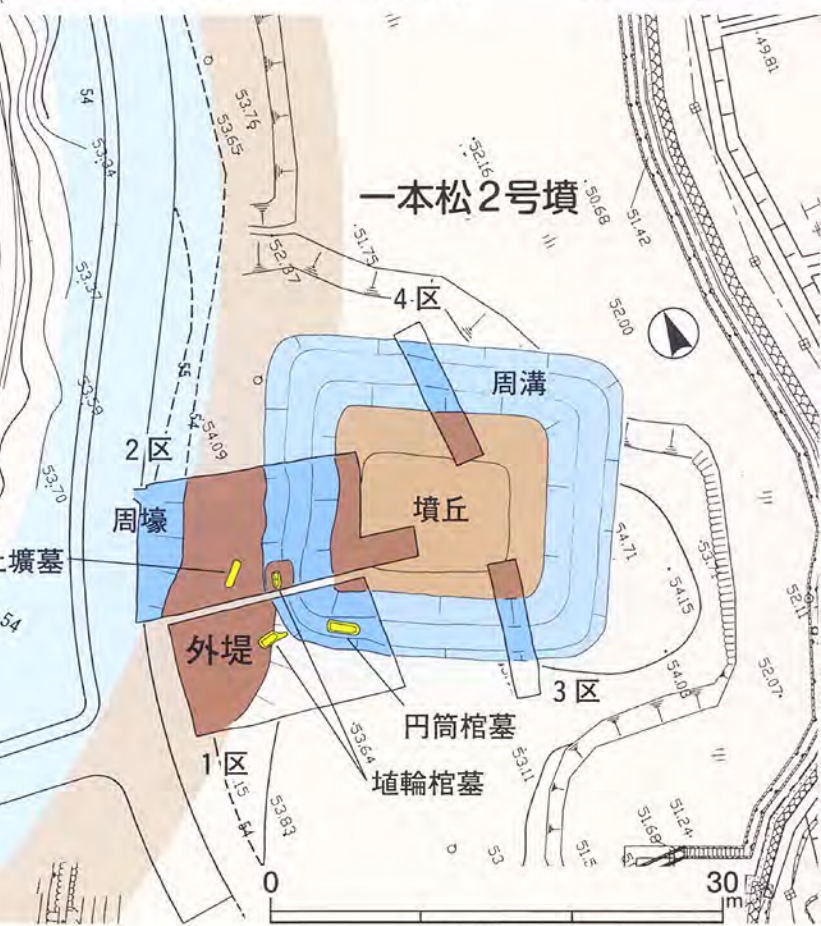
今回の調査により、不明であった一本松古墳とその周辺の様子が明らかとなった。今後、馬見古墳群を考える上での貴重な資料と考える。

（小栗明彦）



調査地位置図 (縮尺: 1/10,000)  
大和条里地図復元図 No.60

1. 調査地 (一本松2号墳)      2. 乙女山古墳      3. 別所下古墳      4. 一本松古墳  
5. 倉塚古墳      6. ナガレ山古墳      7. 佐味田狐塚古墳      8. ダダオン古墳  
9. 三吉2号墳      10. 巢山古墳



調査区平面略図 (縮尺: 1/500)  
「馬見丘陵公園作製地図を使用」

一本松古墳・一本松2号墳 現地説明会資料 2006年7月8日(土)

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065 奈良県橿原市欽傍町1番地 Tel.0744-24-1101

<http://www.kashikoken.jp/> (ホームページでも現地説明会の案内・説明資料をご覧いただけます)